

石垣島農業水利事業所開所式

日時:平成 27 年 5 月 22 日(金)

場所:ANA インターコンチネンタル石垣リゾート



開会の挨拶(島尾 武文様)
内閣府沖縄総合事務局農林水産部土地改良課長



主催者挨拶(河合 正保様)
内閣府沖縄総合事務局長



事業概要説明(八木 康夫様)
内閣府沖縄総合事務局石垣島農業水利事業所長



石垣島農業水利事業所 職員紹介



石垣島国営土地改良事業推進協議会会長
中山 義隆 石垣市長



来賓者の方々

H27.5.22 に石垣島農業水利事業所の開所式と国営かんがい排水事業「石垣島地区」の着工祝賀会がありました。開所式では内閣府沖縄総合事務局主催で進められ、これまでの経緯と事業概要等の説明がありました。式典後は同会場にて石垣島国営土地改良事業推進協議会主催による着工祝賀会が催され、石垣島土地改良区、石垣市、県による余興や、八重山農林高校による余興で盛り上がりました。水土里ネットおきなわからは古謝景春会長、知念専務他計 14 名が出席し、今後の業務の展開に期待を寄せました。

国営かんがい排水事業「石垣島地区」事業概要

事業の目的

石垣島においては、前歴事業である国営かんがい排水事業「宮良川地区」等により農業水利施設が整備されてきたところですが、事業が完了した後、石垣島北部・西部の農家から新たな農業用水の要望がある一方、新石垣空港等の整備による農地面積の減少など水需要の変化が生じています。

また、施設の整備から相当の年月が経過し、老朽化等による施設の機能低下が生じ、施設の適正な維持管理に多大な費用と労力を要しています。

このため、新規受益地も編入した既存水源のダム間送水による再編整備を行うとともに施設の改修を行い、農業の生産性の維持・向上と経営の安定化を図ってまいります。

地域の特徴 亜熱帯地域の特性を活かした農業生産



日本一早い田植え(超早場米)

施設野菜・熱帯果樹の展開

石垣牛ブランドを支える牧草地の拡大

地域の課題 農業用水の需要の変化 / 施設の老朽化

かんがい施設がない北部・西部の環境

■ 新規受益受益地
北部・西部では水需要を要望

■ 現況受益地
現況受益地では、新空港整備等により農地が減少

干ばつの影響を受けやすい / 労力のかかる散水作業

施設の老朽化

管水路の漏水事故が多発 / 施設機能の低下

単位:百万円

年度	補修費 (百万円)
H14	14
H15	12
H16	13
H17	10
H18	15
H19	14
H20	24
H21	34
H22	36
H23	34

事業の概要

1. 受益面積 4,338ha(うち、新規受益 684ha)
2. 主要工事
ダム(改修)・・・5ヶ所 頭首工(改修)・・・3ヶ所 揚水機場(新設・改修)・・・6ヶ所
用水路(新設)・・・50km 用水路(改修)・・・55km
3. 事業工期 平成26年度～平成37年度(予定)
4. 総事業費 281億円(関連事業含み761億円)

事業の効果 事業の実施により、以下のような効果が見込まれます

1. 生産量の増加



2. 労力の軽減



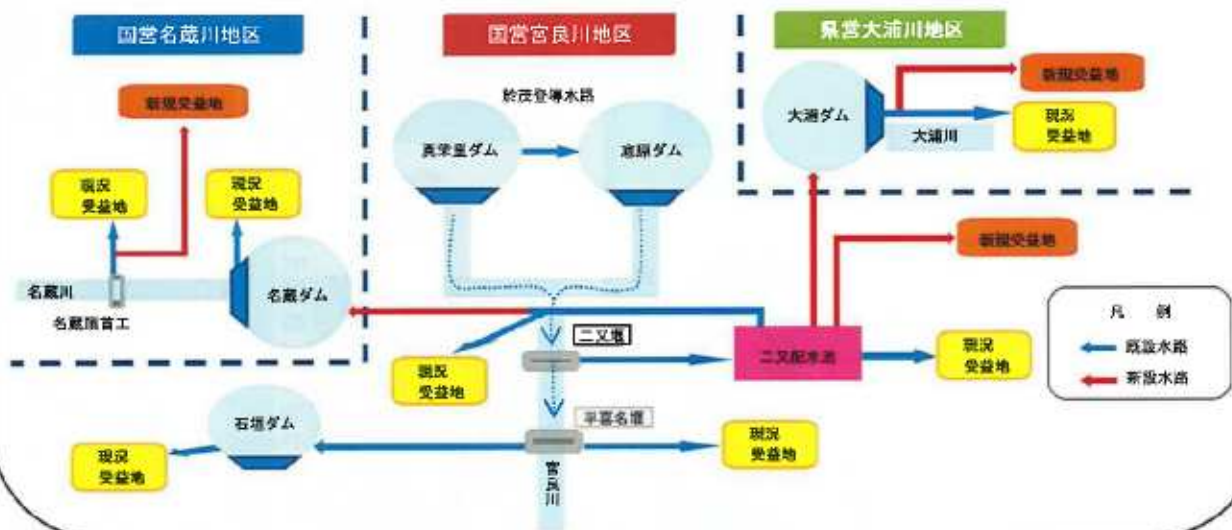
3. 高収益作物の導入



国営かんがい排水事業「石垣島地区」概略図

底原ダムや真栄里ダムの余剰水を、新設水路を經由して、大浦ダムや名蔵ダムへ補給し、北部・西部等の新規受益地へ農業用水を供給。

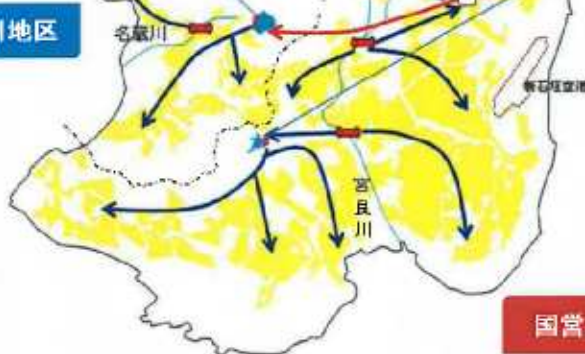
<イメージ>



県営大浦川地区



国営名蔵川地区



国営宮良川地区

凡例	
	現況受益地区
	新規受益地区
	水路(既設)
	水路(新設)
	原管工(堰)
	貯水池